

浪江の

こころ通信

● 第43号 ●



平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、福島県内外に分散避難した浪江町民。長期化する避難生活、先の見えない不安の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

こうした町民の思いをつなげるために、“浪江のこころプロジェクト”が立ち上げられました。一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※)が中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江のこころ通信」が編集・発行されます。

浪江のこころプロジェクトは、分散避難している町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信」を通してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らしを取り戻すことへの願いとこだわりを発信・共有しようとするものです。

※一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、東北圏(7県)の地域コミュニティ再生や協働のまちづくりの推進を目的として、大学、NPO、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信／第43号」への感想をお寄せください。

【連絡先】〒964-0984 福島県二本松市北トロミ573番地
「浪江のこころ通信」宛
FAX.0243(22)4218



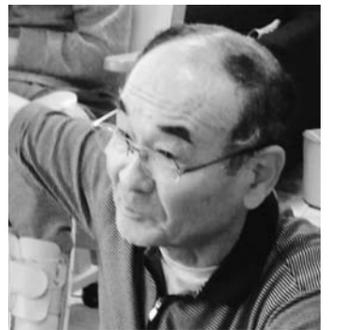


入山 勝秀さん・勝子さん(川添) 中野 卓さん・フキ子さん(高瀬)

取材者：特定非営利活動法人おむた・わいわいまちづくりネットワーク 彌永・松並
取材日：11月29日

振り返れば悔しくてつらい日々だけれど、明日を笑顔で迎えられるように、気持ちを切り替えて暮らしています

入山さんご一家と中野さんご一家は現在同じ市内にお住まいですが、そのことをお互いにご存じありませんでした。それぞれのお話をお聴きするにつれ共通点が多数見つかり、また「故郷の仲間会いたい」と強く思っておられたことから、このグループ取材を「再会のきっかけ」とさせていただくことにしました。



入山勝秀さん



入山勝子さん

◆涙と笑顔の再会

勝子さんの優しい笑顔に迎えられる、暖かい掘りごたつに足を入れるなり、あの日のことから今日の対面を待ちわびていたことまで、堰を切ったように言葉があふれ出しました。

勝子さん 浪江の方とお会いできるなんて、とても嬉しいです。私は足が不自由だけど、お話しちゃんと分かりますからね。

フキ子さん 私は、あの日は仙台にいたけど、何とか浪江に戻ることができた。車が無事だったので暖房をつけて車で寝ました。でも朝になったらガソリンが空っぽでどこにも行けない。あれ以来、ここにも行けない。ガソリンが半分になったら、必ず満タンにするようにしています。

勝秀さん 浪江の情報は役場からたくさん来るし、自分でもパソコンを使って調べることができている。だけど、こうして面と向かって同郷の人と話せるのが何より嬉しいな。

卓さん 以前、新聞で福島の人々の投稿を読んで連絡を取り合いたかったんだけど、うまく進まなかった。いろんなことがありすぎて、だれでも疑心暗鬼になっていたから仕方がないね。

◆浪江のこと

ご両家とも、震災直前に自宅をリフォームされています。勝秀さんが撮影された浪江の様子をパソコンで見せていただきながら、懐かしいあの町・あの人の話題が弾みました。



中野 卓さん



中野フキ子さん

でも古くて段差が多く、これから夫婦二人で安心して過ごすには、自分たちに合った間取りで新しく建てるしかないと思い、エイヤツとすべてを注ぎ込んで建てた。楽しみは、友人とカラオケに行くこと。大きな声を出して日ごろの思いを発散している。

勝子さん 週2日から始めたデイサービスに、今は5日通っています。そこで歌うのがとても楽しいの。人の名前を覚えるのが得意で、職員さんや利用者仲間の名前は全部言えます。お名前と呼ぶと、どなたも喜んでくれますよ。

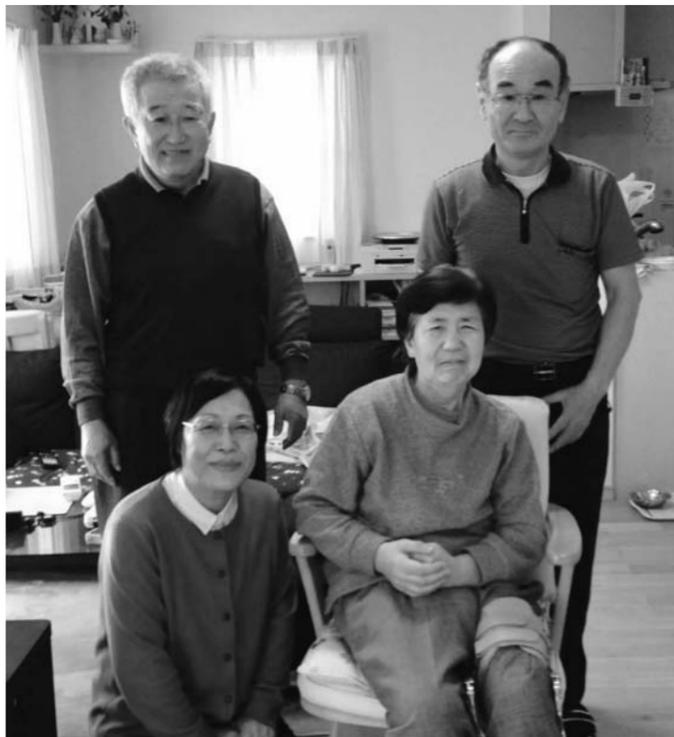
フキ子さん もう10年くらい前に、相馬の松川浦で初めて釣りをやりました。その時が大漁で

“コツバガレイ”が釣れたんです。長崎に来てからも、時々行きます。お父さん(卓さん)が餌をつける人で、私が釣る人です。うふふ。

◆これからのこと

勝子さん 以前は編み物を教えていました。麻痺はありますが左手で少し掴めるようになったので、棒針でマフラーを編みましました。編み物も続けたいし、お父さん(勝秀さん)と二人三脚で作ります。

勝秀さん ここは新興住宅地で、周りは若い人ばかり。同じ世代なんてほとんどいない。でも、ここの班長を引き受けることにした。集金など大変だけど、新



入山ご夫妻(右)、中野ご夫妻(左)

取材を終えて(取材者の感想)

浪江に戻るのか戻らないのか。戻るとしたら、いつ、どんな形で…。その結論は、どなたも明確には持っておられないと感じました。今回、あえてその部分には言及しませんでした。どなたの口ぶりからも、遠い故郷浪江への愛情が強く感じられました。

勝秀さん 今年の10月に見てきたんだけど、草はもろろん、ツタが這って玄関のドアさえ開かなかった。キーウィの実がなっていたのには驚いたよ。

フキ子さん これまで毎年帰っていたけど、今年は帰りませんでした。家の中は見えないほうがいいと子どもに言われていたんですが、やはり気になるので、一度覗いたんですが：ショックでした。

◆長崎での生活

入山家・中野家、どちらもご主人の実家が長崎県です。

卓さん 震災の年に発病し手術を受け、療養のため子ども時代を過ごした暖かい長崎へ引越した。アパート暮らしは狭く・空がなく・緑がなく。このままでは体だけではなく心までダメになってしまおうと思った。気分転換に始めた家庭菜園で取れた野菜類を、近所の方々にもおすそ分けしているよ。新しい友達とゴルフに行つて軽く楽しい話をして過ごすのが、何より楽しい。

勝秀さん 私の実家はすぐ近く。